

CONTENTS

特集 Respiratory ECMO 2.0

責任編集 萩原 祥弘, 岩永 航, 櫻谷 正明

- 1 巻頭言 327
COVID-19 パンデミックを経た respiratory ECMO の現在地
竹田 晋浩 かわぐち心臓呼吸器病院/日本 ECMOnet 理事長
- ECMO 合併症を治療段階で整理する
- 2 VV ECMO 管理総論 331
respiratory ECMO 管理の鍵は安全の担保である
清水 敬樹 東京都立多摩総合医療センター ECMO センター
- 3 導入期 重症 ARDS 患者に対する VV ECMO の導入とタイミング 337
ECMO : First "R"
市場 晋吾 日本大学医学部附属板橋病院 麻酔科・集中治療室
- 4 導入期 configuration と cannulation を「深く」考える 345
理想（理論値）と現実（実臨床）
藤田 健亮 済生会宇都宮病院 救急・集中治療科/栃木県救命救急センター
小倉 崇以 済生会宇都宮病院 救急・集中治療科/栃木県救命救急センター
- 5 維持期 御せよ！ECMO 装置のトラブル 355
サーキットチェックを制する者は ECMO を制す
濱口 純 東京都立多摩総合医療センター ECMO センター
- 6 維持期 抗凝固管理の基礎と合併症 367
治療と評価の手段を識り、患者と病態を知る
服部 憲幸 千葉大学大学院医学研究院 救急集中治療医学
- 7 維持期 VV ECMO における肺保護戦略 375
完全 lung rest から個別化時代へ
岩永 航 浦添総合病院 救命救急センター
- 8 長期 ECMO 合併症の予防と awake ECMO 387
prolonged ECMO から awake ECMO へ、でもその前に
原 嘉孝・中村 智之・西田 修 藤田医科大学医学部 麻酔・侵襲制御医学講座
- Respiratory ECMO の生理学：人体と ECMO の相互作用を理解する
- 9 ECMO 開始時の生理学的変化 399
ECMO 初期設定のコツとリスク管理：臨床応用への実践的アプローチ
大下 慎一郎 広島大学大学院 救急集中治療医学
- 10 respiratory ECMO 管理中の低酸素血症はなぜ起こるのか？ 407
DO₂, VO₂ の構成要素から考える
文屋 尚史 札幌医科大学医学部 救急医学講座
- 11 VV ECMO における右室傷害 423
心肺連関に基づいた右心保護戦略
萩原 祥弘 済生会宇都宮病院 救急・集中治療科/栃木県救命救急センター

- 12 安全ですみやかな weaning のためのアートとサイエンス 437
いつ開始して、何を見るのか？ 知られざる合併症の実態は？
谷口 隼人 横浜市立大学附属市民総合医療センター 高度救命救急センター
- 13 ECMO 管理中の出血原因として忘れてはいけない 4 つの病態 447
出血性合併症の上流には何が隠れているのか？
星野 耕大 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 救命救急センター
- 14 特別企画 エキスパート施設に聞く！respiratory ECMO 管理の 11 の質問 456
大下 慎一郎・清水 敬樹・濱口 純・萩原 祥弘・文屋 尚史
コメンテーター 岩永 航、萩原 祥弘
櫻谷 正明 JA 広島総合病院 救急集中治療科
- 【コラム】海外 ECMO センター紹介 ECMO 基礎研究と海外留学 472
劉 啓文 The Prince Charles Hospital, Critical Care Research Group/
The University of Queensland, Institute for Molecular Bioscience/
NPO 法人集中治療コラボレーションネットワーク
- 【コラム】海外 ECMO センター紹介 米国における mechanical circulatory support トレーニングの開放 ... 478
小畑 礼一郎 Cardiothoracic Critical Care Anesthesiology Fellowship
Cleveland Clinic Foundation

連載

- ◆ え？知らないの？ネブライザの使い方 482
〈シリーズ構成〉上岡 晃一 東京医科大学病院 臨床工学部
磯本 泰輔 兵庫医科大学病院 臨床工学部
- ◆ 集中治療に関する最新厳選 20 論文 489
田邊 翔太 松江赤十字病院 救急部
吉田 英樹 聖マリアンナ医科大学 救急医学

◆ 倫理規定 496

◆ 次号予告 497

注意 本誌に携わった全員が、本誌に示す情報が正確で、実臨床を反映したものとなるよう極力努力した。しかしながら、編著者ならびに出版社は、本誌の情報を生じたいかなる不都合に対しても責任を負うものではない。薬物の使用にあたっては、個々の薬物の添付文書を参照し、適応、用量、付加された注意・警告に関する変化を常に確認されたい。